

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告

( 3 年計画の 3 年目)

## 1. 研究課題

日本宗教史像の再構築

Reconstructing Japanese Religious Histories

## 2. 研究代表者氏名

大谷栄一

OTANI Eiichi

## 3. 研究期間

2014 年 4 月 - 2017 年 3 月 (3 年度目)

## 4. 研究目的

近年、日本宗教史の研究は新たなステージを迎えている。近代仏教史を例に挙げれば、従来の研究が更新されつつある。長年、この分野を牽引してきた吉田久一、柏原祐泉、池田英俊らの研究に多大な実証的成果を認める一方、宗教史的事実の位置付けに一定の「偏向」があることも徐々に明らかとなってきた。たとえば、神智学協会会長・オルコットの来日(明治22年)という出来事の宗教史的意義が検討されることはまれだった。しかし実際には、来日したオルコットは各地で大歓迎され、一種の仏教リバイバルを引き起こした。ここに、「神智学」のオカルティズムに対する近代仏教研究側の予見があったことは認めざるを得ない。すなわち、近代主義的な「宗教」観に基づく事例の取捨選択が強固に作用していたのである。こうした既存の宗教史研究の「近代主義的」なバイアスを解きほぐし、それによって不可視化されていた事象に光を当て、新たな日本宗教史像を構築していくことが本研究の目的である。

## 5. 本年度の研究実施状況

本年度は以下の9回の研究会を実施した。「日本宗教史における「神と仏」(4/30)」「安丸宗教史を読みなおす」(7/30)「図書館と宗教」(8/10)「宗教とメディアの 1930 年代」(8/19)「日本仏教史像を解きほぐす」(10/23)「高取正男を読みなおす」(12/11)「日本心霊から人文書院へ」(12/17)「総合討論:近代と秘教ネットワーク-研究の今と未来-」(3/11)「「日本の近代化と宗教」を捉え直す―「日本宗教史像の再構築」のために―」(3/20) このほか、最終報告書の編集作業を進めている。

## 7. 本年度の研究実施内容

2016-04-23

日本宗教史における「神と仏」

発表者 鈴木正崇 慶応義塾大学名誉教授

2016-07-30

安丸宗教史を読みなおす

「近代」批判の方法と安丸思想史

発表者 繁田真爾 明星学園

モノで読み解く『神々の明治維新』—亡失物と残存物を考える—

発表者 角南聡一郎 元興寺文化財研究所

『神々の明治維新』と近代南都仏教史

発表者 黒岩康博 天理大学

近世社会・如来教から安丸良夫『出口なお』を相対化する

発表者 石原和 立命館大学大学院

誰かについて、語るということ—『出口なお』から考える、個の現代史叙述とその方法—

発表者 西井麻里奈 大阪大学大学院

近代初頭のキリスト教史における『民衆』の発見—『オーギー』と『リヴァイヴァル』をめぐる—

発表者 一色哲 帝京科学大学

総合討論 司会 大谷栄一 佛教大学・永岡崇 日本学術振興会

2016-08-10

図書館と宗教

近代日本の図書館と宗教:公共図書館を中心に

発表者 鈴木宏宗 国立国会図書館

皇學館大学附属図書館の取り組みについて—建学の精神と図書館活動—

発表者 岡野裕行 皇學館大学

金光図書館の存立の意義—布教興学に資し公共に奉仕する—

発表者 金光英子 金光図書館

コメンテーター 小林昌樹 国立国会図書館

コメンテーター 森洋介 無所属

司会 菊地暁 京都大学

2016-08-19

宗教とメディアの1930年代

1930年代の宗教言説：反宗教と宗教復興を中心に

発表者 近藤俊太郎 本願寺史料研究所

1930年代前半の大本と文書メディア

発表者 對馬路人 関西学院大学

1930年代の新宗教と展示という実践

発表者 永岡崇 日本学術振興会

宗教運動としての出版：「生長の家」をめぐる

発表者 栗田英彦 日本学術振興会

コメンテーター 吉永進一 舞鶴工業高等専高等専門学校

司会 川瀬貴也 京都府立大学

2016-10-23

日本仏教史像を解きほぐす

鎌倉仏教論の焦点

発表者 坪井剛 京都造形芸術大学

近世仏教衰微史観の深層

発表者 上野大輔 慶應義塾大学

私度僧若しくは僧尼令問題

発表者 佐藤文子 佛教大学

司会 松金直美 真宗大谷派教学研究

2016-12-11

高取正男を読みなおす

「贖罪」の共同体、「ワタクシ」の宗教

発表者 黛友明 大阪大学大学院

高取正男のモノ論—納戸神再考—

発表者 土居浩 ものつくり大学

『神道の成立』と黒田俊雄

発表者 林淳 愛知学院大

コメンテーター 西村明 東京大学

コメンテーター 関一敏 九州大学名誉教授

コメンテーター 中牧弘允 国立民族学博物館名誉教授

司会 菊地暁 京都大学

2016-12-17

日本心霊学会から人文書院へ 新資料調査の中間報告

霊肉救済・霊俗融合-精神療法家、渡辺藤交

発表者 吉永進一 国立舞鶴工業高等専門学校

福来友吉と日本心霊学会

発表者 一柳廣孝 横浜国立大学

日本心霊学会と伝統仏教-雑誌『日本心霊』の調査から

発表者 栗田英彦 日本学術振興会

野村瑞城について私の知ってる2、3の事柄

発表者 菊地暁 京都大学

編集者清水正光と戦前期人文書院における文学関係出版

発表者 石原深予 神戸学院大学

人文書院100年のあゆみ

発表者 佐藤良憲 人文書院

2017-03-11

総合討論:近代と秘教ネットワーク-研究の今と未来-

司会 赤井敏夫 神戸学院大学

2017-03-20

「日本の近代化と宗教」を捉え直すー「日本宗教史像の再構築」のためにー

日本宗教史研究におけるウェーバー受容の批判的検討

発表者 大谷栄一 佛教大学

モダニティとしての新宗教ー迷信・宗教・帝国

発表者 永岡崇 日本学術振興会

いわゆる「民間信仰班」の三年間ー「近代」の踏まえ方と乗り越え方ー

発表者 菊地暁 京都大学

「近代(的)仏教」への投企ー植民地朝鮮における仏教を題材に

発表者 川瀬貴也 京都府立大学

コメンテーター 對馬路人 関西学院大学

司会 福島栄寿 大谷大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

「特集:日本宗教史像の再構築ートランスナショナルヒストリーを中心としてー」『人文学報』108  
(2015.12) 2015年12月12-13日 International Workshop “Modernization, and  
Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki”

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	2 (0)	0	0	1 (0)	10 (0)	0	0	2 (0)
学内	1	5 (0)	0	4 (0)	0	25 (0)	0	20 (0)	0
国立大学	5	6 (0)	1 (0)	1 (1)	0	30 (0)	5 (0)	5 (5)	0
公立大学	2	2 (0)	0	0	0	10 (0)	0	0	0
私立大学	20	30 (10)	0	10 (5)	10 (5)	150 (50)	0	50 (25)	50 (25)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	4	4 (0)	0	0	0	20 (0)	0	0	0
民間機関	5	5 (2)	0	0	0	25 (10)	0	0	0
外国機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	10 (0)	0	0	0	10 (0)	0	0	0
計	38	64 (12)	1 (0)	15 (6)	11 (5)	280 (60)	5 (0)	75 (30)	52 (25)

※( )内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	平成 28 年度に共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研教員等のみの論文(単著・共著)	0		0	
②人文研教員等と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		1	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

人文研教員等には教員のほか、人文研の非常勤職員・指導している大学院生も含まれます。  
 ( )内は、人文研教員等が、特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等)を果たしている論文(内数)

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究活動の概要については逐次ホームページで公表するほか、関連学会でも時宜に応じて報告する。最終報告書としては日本宗教史研究における重要概念の解説集を刊行する予定である。